



電子書籍の作品を紹介する今井さん(豊岡市内で)

絵本屋.com(豊岡市)

スマートフォンやタブレット端末で癒やしの世界へ。「絵本屋.com」は、電子書籍をメインに大人が楽しめる絵本を手掛ける。主宰する今井秀司さん(42)は2015年から豊岡市などを拠点にビジネスを展開。「大人を魅了するような絵本の電子書籍市場を目指す。作家が副業をしないで本業の絵本一本で生活できるぐらいにしたい」と意気込む。(松田聡)

移動スーパー



マイ・マート社長 橋本 琢万さん 40 兵庫県洲本市

声を聞く中、事業を進めることを決めた。足腰が弱った高齢者の玄関先や福祉施設にも立ち寄る移動販売車を歓迎する声には、「地元企業だからこそできる。さらにやるべきこ

れる距離」で接する地元スーパーの特長を生かして、返礼品として優れた地場産品の掘り起こしに力を注いでいる。「社会貢献というにはおこがましく、地域と最後までやっついていく、共に豊かになるという『覚悟』が事業の原点」という。「微力でも無力ではない。時間をかけて年輪のような経営を目指したい」。古里の暮らしを守る思いは熱い。

電子書籍 大人の心癒やす



「絵本屋.com」には東京や京阪神の絵本作家11人が所属し、有料約60作品、無料約90作品を扱っている。インターネット通販アマゾンの読書専用端末「Kindle」で販売数が絵本部門で1位など、売れ行き上位の作品が相次ぐ。15年に初めて発行したサトウヒロシさんの「万年筆画巻レノン40」は、40歳の「ちよい悪」風の中年男性が主役のハードボイルドコメディ。販売初日にKindleで1位となったという。

関西

のお父さんになったつもりで応援しています」と激励を受けた。演技中のポーズをかたどった、砂糖菓子が入ったケーキをプレゼントされると、スマートフォンで写真を撮るなど大喜びだった。紀平選手は「GPファイナルで優勝して以降、西宮ガーデンズで買い物をしていても声をかけてもらえるようになった。応援を励み

電子書籍は印刷経費が不要で、在庫を抱えるリスクがないのが強みだ。インターネットを介し、海外でも発行できる。海外の出版社の目に留まり、電子書籍が紙の書籍として翻訳、出版された作品もある。サトウさんの「僕は父になりました」は韓国で2000部、台湾で2500部が発行済みで、中国でも5000部の発行を予定する。今井さんは豊岡市竹野町出身。大学を卒業後、大手音楽放送会社などに勤務したが、起業への意欲が強くなり、2005年に退職。新たな仕事を模索した。そんな中、中学生の頃に核戦争から逃れようとする老夫婦を描いたレイモンド・ブリ

たスポットが人気を集めている。2月14日まで。園内には、濃淡のピンクの花を植えてハートマークを描いた花壇や、ハート形のオブジェなどを設置。来園者たちは、スマートフォンで記念撮影して楽しんでいった。

利用料はロープウェイの往復乗車賃も含めて大人1500円、中学生以下750円、未就学児無料。